

その名はインマヌエル

著者	佐々木 哲夫
雑誌名	大学礼拝説教集
号	12
ページ	21-24
発行年	2008-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00024515/

「その名はインマヌエル」

宗教部長 佐々木 哲夫

マタイによる福音書一章二二―二三節

22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するた
めであった。

23 「見よ、おとめが身をもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

歴史を遡ること約二千年、エルサレムの南方八キロメートルに位置する小さな町ベツレヘムに、イエス・キリストは生まれました。マタイ福音書は、その出来事を、旧約聖書の預言者イザヤの言葉「見よ、おとめが身をもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」を引用して記録しています。本日開きました聖書個所に記されているとおりです。

インマヌエルという表現は、預言者イザヤのヘブライ語をそのまま記録した言葉です。前半部のインマヌは「我々と共に」、後半部のエルは「神」という意味ですから、インマヌエルは「神、我々

と共に「おられる」という意味になります。すなわち、イエス・キリストの誕生を「神、我々と共におられる」出来事であると解説しているのです。この言葉は、実に意味深い表現です。ご一緒に、イエス・キリストの誕生がインマヌエルの出来事であったことについて考えたいと思います。

イザヤのインマヌエル

さて、イザヤという人物は、紀元前八世紀のユダ王国で活動した預言者です。当時の世界では、と言っても今日の世界とあまり変わりがなくとも知れませんが、神は、神話によって知られる存在でした。神話の神は、天高く遠くに存在しています。例えば、バビロニア神話に登場する神エンリルは、地上にうごめく人間たちを天から見下ろして、他の神々に語ります。「人間どもの騒ぎは耐え難いほどひどくなった。彼らの騒々しさのために眠ることも出来ぬ。」これが発端となって、神々は、やがて、大洪水を引き起こし、人間を根絶やしにしようとなりました。これが、古代オリエント世界の常識的な神の姿でした。天に存在する遠い神です。

しかし、オリエント世界の小国ユダの預言者イザヤは、そのような当時の常識を打ち破るかのように「見よ、おとめが身をもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」と預言したのです。インマヌエル、すなわち、「神は我々と共におられる」と、私たちの近くに存在する神を預言したのです。だが、イザヤには、神から預かったこのインマヌエルという預言が、具体的に誰に

において実現するかを見通すことはできませんでした。預言の成就が、霞のかかったような時空の彼方に存在していたからです。

マタイのインマヌエル

さて、預言の成就をはっきりと目撃することができたのは、イザヤから八世紀後の人たちでした。新約聖書の人々です。マタイは、イエス・キリストの誕生を「預言者を通して言われていたことが実現するためであった」と記し、イザヤ預言の成就を宣言しています。

しかし、マタイは、ベツレヘムの家畜小屋に寝ている男の子を実際に見てはいません。誕生に立ち会ったのは、貧しい羊飼いたちであり、東方から訪ねてきた博士たちでした。マタイがイエスと出会うのは、それから三十年経った時のことです。しかし、マタイは、はっきりと、イエスの誕生をインマヌエルの出来事であると認識したのです。それは、誕生の時ではなく、イエス・キリストの十字架と復活の時間においてでした。聖書に次のような言葉が記されています。「(イエス・キリストは) 十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。」(一ペテロ二章二四節)。罪を糾弾し洪水を起こす神ではなく、罪のゆるしを実現した十字架の出来事にインマヌエル預言の成就を確信したのです。

私たちのインマヌエル

さて、マタイの時代からさらに二千年の時が経過しました。今日、私たちのそばに地上のイエス・キリストはいません。復活の後、四十日経って、イエス・キリストは大へと昇ったのです。土樋礼拝堂の正面のステンドグラスには、天に昇る直前のイエス・キリストの姿が描かれています。しかし、これが最後の場面ではありませんでした。この時、イエス・キリストは、聖霊なる神が到来するという新しい時代の幕開けをも告げていたからです。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒言行録一章八節)。やがて、聖霊なる神が降り、新しい時代、新しいインマヌエルの時代が始まりました。教会時代です。その意味において、インマヌエル預言の成就是、今日まで続いています。「神、我々と共におられる」という意味を込めて、共に、メリークリスマスの挨拶を交わしたいと思います。